

平成26年度

— 第16回（定例・臨時） —

教育委員会会議録

開 会	平成27年1月30日	午前 午後	2時30分			
閉 会	平成27年1月30日	午前 午後	3時30分			
会議場所	教育委員室					
委員出欠	花山院弘匡	出	森本哲次	出	佐藤 進	出
	藤井宣夫	欠	高本恭子	出	吉田育弘	出
議事録署名	教 育 委 員 長					
委 員	教育委員長職務代理者					
書 記	奈良県教育委員会事務局 企画管理室					

議案及び議事内容	結果
<p>次 第</p> <p>議決事項 1 退職手当返還請求債権の権利放棄について（秘密会）</p>	<p>可 決</p>
<p>○花山院委員長「ただ今から、平成26年度第16回定例教育委員会を開催いたします。本日は、藤井委員が欠席ですが、定足数を充たし委員会は成立しておりますので、これより委員会を開催いたします。」</p>	
<p>○花山院委員長「まず、はじめに前回の定例教育委員会会議録の承認についてです。」</p> <p>「お手元に配布している会議録について、各委員内容をご確認ください。」</p> <p>「ご承認を頂けますでしょうか。」</p> <p>※ 各委員一致で承認</p>	<p>承 認</p>
<p>○花山院委員長「議決事項 1 につきましては、現時点で未公表の案件ですので、秘密会において審議すべきものと考えます。」</p> <p>「委員のみなさまにお諮りします。いかがでしょうか。」</p> <p>※ 各委員一致で可決</p>	<p>可 決</p>
<p>その他報告事項</p>	
<p>○花山院委員長「それでは、報告、連絡事項等はございませんか。」</p> <p>○教育長「その他報告事項が5件ございます。松田次長から1件、学校教育課長から1件、保健体育課長から2件、教育研究所副所長から1件を、続けてご報告いたします。」</p> <p>1 平成26年12月定例県議会の概要について</p> <p>○松田次長「12月1日に開会し、12日に閉会いたしました。教育委員会関係の議案では、議第86号として補正予算を、議第88号及び89号として条例2案を提案しております。会期中に本会議で教育長に対し、代表質問、一般質問が行われています。また、文教くらし委員会でも質問がありました。」</p> <p>まず、教育委員会関係の提出議案についてご説明いたします。『平成26年度奈良県一般会計補正予算』です。一つ目、『雇用対策の推進、工業高校等備品整備事業』に関する補正予算案でございます。これは、生徒の就労を支援するため、職業教育を主とする専門学科の実習備品を整備するものでございます。二つ目、『学びの支援、スクールバスの整備』でございます。これは、特別支援学校の児童・生徒数の増加に対応するため、スクールバスの増車と更新を行うもので</p>	

議案及び議事内容

す。三つ目『その他、給与改定に伴う増額』でございます。10月の人事委員会からの勧告の趣旨に則り、給与改定を実施することによるのもので、13億6千1百万円余のうち、教育委員会に関するものは、特別職と一般職を合わせまして、8億5千5百万円余でございます。

次に条例の一部改正です。『奈良県事務処理条例の特例に関する条例の一部を改正する条例』です。このうち教育委員会所管分は、文化財保護法に基づく史跡名勝天然記念物の現状変更等の許可等の事務処理に係る町を追加するものです。次に『一般職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例』です。このうち教育委員会所管分は、『教育長の給与等に関する条例の一部改正』で、教育長の期末手当の額を改定しようとするものです。

続きまして、本会議及び委員会での質問、答弁等の概要をご報告いたします。代表質問の概要です。民主党の藤野議員より教育行政について3点の質問がありました。『小、中学校及び高等学校における教員の労働時間や執務環境の現状認識と課題に対する取組状況について』質問があり、市町村教委に対する労働安全衛生に関する研修会の実施や学校の業務改善の実践事例集を作成し活用するよう働きかけていること等について、教育長より答弁いたしました。『高校3年生までの少人数学級の導入について』質問があり、国からの加配教員を活用した少人数学級編制を推進していくことや今後も研究を進めて総合教育会議等の場で議論していく旨、答弁いたしました。『学力格差の現状と是正のための取組について』質問があり、教育長より、学校が中心となって家庭と連携し、子どもの学力意欲の向上に全力を傾ける旨、答弁いたしました。なら元気クラブ和田議員より『いじめ対策への取り組み等について』質問があり、教育長より、いじめを許さない学校づくりのための取組について答弁いたしました。

次に、一般質問の概要です。なら元気クラブの山本議員より『平成27年度全国高校総体の開催について』、無所属の阪口議員より『学力テストの活用について』質問があり、教育長より学力テストの結果を詳細に分析し、課題解決の取組に活用している旨、答弁いたしました。また、阪口議員から『学校への冷房設備設置について』の要望がありました。自由民主党の上田議員より『学校における諸課題への対応について』質問があり、教育長より必要な支援を行っていく旨、答弁いたしました。

続きまして、12月11日に開催されました文教くらし委員会です。先に説明いたしました補正予算案及び条例の一部改正について説明を行いました。民主党の猪奥委員から入札による電力調達について、日本共産党の宮本委員から少人数学級について、県立高校の普通教室への扇風機の設置について、奈良養護学校整肢園分校における教育の保障についてなどの質問があり、教育長及び担当課長より答弁いたしました。議会閉会日には、文教くらし委員長報告が行われ、最終日に議案は可決されました。」

2 県立特別支援学校幼稚部・高等部入学者募集人員について

○学校教育課長「入学者募集要項につきましては、10月の定例教育委員会にてご了承いただいておりますが、今回は募集人員につきまして報告いたします。盲学校及びろう学校の幼稚部並びに特別支援学校の高等部につきましては、これまで事前の教育相談を通じて、希望している全ての幼児生徒を受け入れてきており、平成27年度も基本的にこの方針でまいりたいと考えております。なお、各学校の募集人員は平成26年12月1日現在の希望者数をもとに、幼稚部は1学級当たりの定員5名の学級数分、高等部は定員8名の学級数分を基礎として算出しました。」

3 「おうちで体力アップカード」について

○保健体育課長「幼少期における運動遊びの大切さを家庭に啓発するために、『おうちで体力ア

議 案 及 び 議 事 内 容

ップカード』を作成しました。県内全ての小学校1年生と幼稚園・保育所の5歳児を対象に2万8千枚配布しています。幼少期は、脳・神経系が急激に発達する時期であります。この時期に楽しみながら、体の基本的な動きを身に付けることが大切であり、このカードを使って、親子で運動に親しむきっかけとして活用できるような内容となっています。カードの内容として、『1人でできる運動遊び』の事例が8例、『親子でできる運動遊び』の事例が15例、合わせて23の事例を掲載し、運動に取り組むたびにカードに色を塗ることができ、子どもたちの意欲を高めるようにしています。また、保護者に幼少期の発達・発育の特性や基本的な動きを身に付けるためのポイントなども掲載しています。」

4 「みんなでチャレンジ」の開催について

○保健体育課長「平成27年2月14日土曜日に、県立榎原公苑第1体育館で、『みんなでチャレンジ!』を開催します。第1部では、小学校3年生から6年生を対象に、『チャレンジ運動大会』と題して、ペア縄跳びや8の字大縄跳びの記録会を行います。これは、県教育委員会がホームページを利用して実施している『外遊び、みんなでチャレンジ!』という、子どもたちが縄跳びやボール遊びをインターネットで記録を登録しているまとめとなるものです。仲間と力を合わせて記録に挑戦させることを通して、運動への親しみや集団で運動する楽しさを味わわせるとともに体力の向上を図ります。また、第2部では、県内の幼児・児童とその保護者を対象に『体力アップ!親子チャレンジ』と題して、『らくがきっ子体操クラブ』の講師を招いて、楽しい親子体操教室を実施します。親子のふれあいや、体を動かすことの楽しさ等を体験させ、幼少期の運動遊びの重要性を啓発する機会とします。」

5 教員のICT活用指導力向上研修会について

○教育研究所副所長「1月15日木曜日、県立教育研究所において開催いたしました。対象は小学校の先生方、市町村教育委員会の方です。全体会では、まず、県教育委員会の指定研究員、これは学校現場で日常授業をしながら、研究所の研究指導主事とテーマを設定して1年間調査研究をして最終論文を作成する研究員で、2名により、『ICTを活用した授業づくり～今あるもので、できることから広める～』をテーマにした実践発表等を行いました。主に実物投影機やプロジェクター、デジタルペン等を駆使した授業、あるいは校内研修へのICT活用の実践を報告してもらいました。『ICTを活用した授業をもっと受けたい、ICTを活用した授業は楽しい、わかりやすい。』と答えている子どもが9割を超えるという報告もありました。先生方からも『基本的な活用方法として教材を提示する、拡大して大きく画面に表示するだけでも子どもが顔を上げ、集中する。』といった報告もありました。そのほか、話し合い活動では『デジタルペンを活用することで、自分の意見がリアルタイムに拡大表示されることをきっかけとして、ふだん自分の意見をあまり発表しない児童が積極的にグループで発言するようになった。』というような報告もありました。また、書画カメラやデジタルカメラ、タブレットの活用方法について、業者の方からデモンストレーションもしていただきました。例えば、タブレットを用いて、立ち幅跳びの良い例と悪い例の動画を並べて再生したり、跳び箱が跳べた事例と飛べなかった事例の手の位置はどこだったかということを重ねて再生したりすることもしていただきました。当日は、ICT機器の27社の協力も得て、各講座室に分かれ、機器やソフトを実際に操作して、体験してもらいました。170名の参加があり、全体会の中では『ICTを使えば授業が自動的に良くなるのではなくて、基本的な授業力であったり、板書力、表現力、説明力が必要。』との意見もありました。当日の様子は、2月11日水曜日18時からの奈良テレビ放送番組『ゆうドキッ!』の中の、『なら教育レポート～まなびだより～』で放映される予定です。」

○花山院委員長「報告いただいたこれらの内容について、ご意見、ご質問はございませんか。」

議案及び議事内容

○花山院委員長「民主党の藤野さんと共産党の宮本さんの質問で、少人数学級について言及されています。高校では、社会や英語でも分割授業があったと思います。中学でも選択授業や体育の分割授業をやっていると思います。現場ではいろんな形で行われていると思います。現場に行かないと分かりにくいと思いますが、そのような事例を教えてください。」

○教職員課長「議会での質問は、学級編制基準を見直して教員を増やしてほしいという趣旨だと思います。事例としては、国から加配をいただいて、少人数学級にされているところもありますし、奈良市、生駒市のように市単独で、少人数にされているところもあります。それ以外に、少人数の指導ということでの加配も文科省からいただいて各学校に必要なに応じて配置しています。小学校においても算数であったり国語であったり、学校によって教科を決めて、小さいクラスにして行っていることもあります。中学校についても、数学など習熟度別に学級を分けていることもあります。」

○花山院委員長「保護者が学生の時にはそのような運用はなかったもので、きめ細かいことをやっているというイメージが県民の人にはないと思います。議会質問の趣旨は分かっていますが、現場では努力してやっていると思いますので、県民の方に知っていただくためにどこかで発信してもいいと思います。」

○教育長「福井県なら小、中学校全て35人学級です。15億円ぐらいかかっていると思います。三重県やも秋田県もやっています。三重県では、『やっても成績が悪い』と嘆いていました。また、首長さんは、習熟度クラスでやってみたいと思うようです。ところが、まだ現場に抵抗感があり、なかなか導入が難しいです。」

○花山院委員長「総合教育会議などで議題にあげて、頑張っている現場もあることを知っていただくのは、とてもいいことだと思います。」

○森本委員「1月17日で震災から20周年でしたが、近年にない大災害で、学校を避難場所にしたことが災害に対する対応として変わったことだと思います。そういう中で、奈良県における学校施設の耐震化が次の災害時になされていないことがないように、教育委員会として訴えていく必要があると思います。」

○高本委員「保健体育課から、『体力アップカード』と『みんなでチャレンジ』の報告を頂きましたが、私が思っていたことを全部やってくれてほっとしています。今、お年寄りを介護している医療現場では、13、70という言葉があります。13歳までに足腰を使う運動をした人は、70歳になっても骨折しない、歩ける、寝込まないということが分かってきました。将来を見越して、子どもたちに運動する必要性を全県的に啓蒙する必要があると思います。すごくいい機会ですので、いいカードを作ってくれたことを喜んでいきます。今後ともよろしくお願いします。」

○花山院委員長「ICT活用指導力研修会について、何をどうすれば活用が進むのかは現在模索中だと思います。私は県外視察で、教員が体育館でタブレットを使用して子どもたちのダンスを撮影しているのを見ました。とても画期的でびっくりしました。教員が1人で3人分位できるのではないかと思います。それに比べて、今回の奈良県の研修会で、黒板の代わりに電子黒板にしたり、ビデオで見たものを投影して分かりやすくしたりするのは、驚くような活用ではないので、これはすごいというものはありませんか。」

○教育研究所副所長「今回は、教員のICTの活用指導力が奈良県は47位と低迷しているということで、学校で一番苦手な先生方でも使えるような、今学校にあるものを活用していくことも立

議案及び議事内容

派なICT活用であり、それだけでも効果があると言うことをまず第1部で行いました。分科会では、書画カメラでも静止画でなく動画を即座に大写しにして調理実習や楽器演奏の手元をそのまま写したり、先生方の問いに対して意見を言う、それをタブレットで答えると即座に多い順番に並んでグラフ化されるという内容もありました。しかし、あまりかけ離れたことをやると、そのような機器がないとできないという反応になりますので、あるものを使いながら子どもの興味関心をひくような、集中力を高めるようなことから始めていこうとしています。そんなことをやっておれば、タブレットが入ったときに、有効に活用していただけるという趣旨で企画しました。」

○花山院委員長「現在の電子辞書は、動画が出てきたり音が出てくるので、授業よりもわかりやすいのではないかと思います。そういう意味では、生徒がそれを使って感動するようなものがないと難しいと思います。」

○教育長「ICTを使った指導力が低く、全国で47位であることが問題です。」

○花山院委員長「ICT特区のような学校はあるのですか。」

○教育研究所副所長「へき地の十津川等には入っていますが、ICT活用特区はありません。」

○花山院委員長「どこかにモデル事業などが無いと他には波及しにくいと思います。」

○教育研究所副所長「来年度はICT教育係が推進していきます。研究所にタブレットを使える研修室がありませんので、5～6台位をグループで活用していくことから始めようとしています。一般教科の研究指導主事が一般教科の授業づくり研修の中で、活用方法を伝えていきたいです。」

○教育長「今までは、ICT教育推進という視点はあまりありませんでした。研究所で推進していこうという意気込みが出てきました。」

○森本委員「特別支援学校等の募集人員は昨年に比べてどうですか。」

○学校教育課長「全体の数は少し減っています。昨年は307名、今年は280名です。」

○佐藤委員「体力アップカードは、使用しているかどうかを追跡で調べる計画はありますか。」

○保健体育課長「小学校教員では体育専門はいませんが、体育を担当する教員がおり、その研究会と合同して、カードの内容を研究して作っています。研究会を通して各学校でどれくらい活用しているのかの事後調査も併せて行う予定です。」

○佐藤委員「体力をつくろうとすると長く続けることが必要ですので、啓蒙を続けていってください。」

○花山院委員長「協賛団体が記載されていますが、今までもあったのですか。」

○保健体育課長「これまで教育委員会が作成する冊子にはあまりありませんでした。しかし、『おはよう、おやすみ、おてつだい』運動のときに協賛団体を募りましたので、保健体育課でもそれを参考をお願いしたところ、協賛金をいただき、掲載させていただきました。」

○花山院委員長「県内全ての子どもに行き渡るのには企業にとってもいいことだと思います。」

○花山院委員長「他にございませんか。これらのその他報告事項については了承いたします。」

議 案 及 び 議 事 内 容

○花山院委員長「次に秘密会に入ります。」

議決事項 1 退職手当返還請求債権の権利放棄について（秘密会）

議決事項 1 について、教育長、教職員課長から説明があり、全委員一致で可決された。

○花山院委員長「本日の議案は全て終了いたしました。この他に報告、連絡事項等はありませんか。」

○花山院委員長「それではこれもちまして、本日の委員会を終了します。」